

◎注意事項をよくお読み下さい



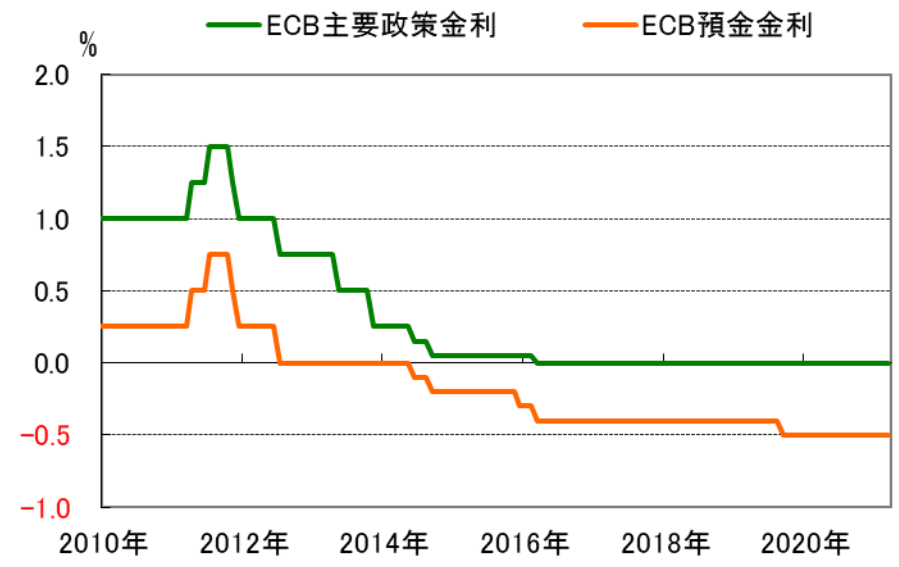
りそな 経済フラッシュ

(ECB <欧州中央銀行> 理事会)

〇概況

- ◆ 今回の理事会は、金融政策の据え置きを決定
 - ◆ 声明文に第2四半期に向けてPEPPの買入ペースを加速させる方針を明記
 - ◆ ラガルド総裁の会見では、足元の金利上昇について警戒感を示し、良好な金融環境を維持したいと強調。
- ✓ 3月11日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では、**中銀預金金利は▲0.50%、主要リファイナンス金利は0.00%、中銀貸出金利は0.25%で据え置きた。また、パンデミック緊急資産購入プログラム（PEPP）やTLTRO-Ⅲ（条件付き長期リファイナンスオペ）の規模及び期間を維持した。**
 - ✓ 一方で、PEPPについては、**声明文で21年第2四半期に向けてPEPPの買入ペースを非常に大きく加速**するとの方針を明記した。同内容が声明文中に記載されたことはサプライズであり、市場予想以上にハト派姿勢を強化したことで欧州各国の国債利回りは低下した。
 - ✓ またフォワードガイダンス（将来の金融政策方針）については、「**インフレ目標の実現がしっかりと見通せるまで**」を据え置き。
 - ✓ 今回の会合で新たに見直されたECBスタッフによる経済・物価見通しについては、21年のGDPが小幅に上方修正された一方22年は小幅に下方修正された。物価見通しは、21年についてはドイツが一時的に適用していた付加価値税減税が失効したことや原油価格の上昇などにより大幅に上方修正されたものの、その後は12月会合から大きく変更されていない。
 - ✓ ラガルド総裁は理事会後の会見で、米国の金利上昇から波及した欧州各国の**金利の上昇について警戒感を示し、インフレ見通しに留意しながらも良好な調達環境を維持**したい考えを強調した。
 - ✓ PEPPについては声明文で買入ペースを加速すると明記されたが、具体的にどの程度買入額を増額するのか注目されるであろう。

【ECB政策金利と預金金利】



【ECBスタッフ見通し（3月時点）】

	2021年	2022年	2023年
実質GDP成長率	+4.0	+4.1	+2.1
12月時点の見通し	+3.9	+4.2	+2.1
HICP（消費者物価）	+1.5	+1.2	+1.4
12月時点の見通し	+1.0	+1.1	+1.4

前年比、%
【出所】ECB、Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。